

東京凌霜謡会 2023(令和 5)年の活動状況

2023 (令和 05)年

1月22日 1月21日に東京六甲クラブで1月例会を開催しました。参加者は6名と少なかったが、元気よく「神歌」「鶴亀」「巴」「誓願寺」「安宅」「野守」の素謡6番で謡初めを行いました。例会では2022(令和4)年の会計報告が行われ、伏見監事からの監査報告と併せてご承認を頂きました。また、例年年初に提示される御題小謡(本年は「友」)の譜面が配布されました。恒例の「能・謡ひとくちメモ」は「安宅」に因んで、(第7話)《「無知」か「誤解」か「理解不足」か》を配布し、『もとより勸進帳はあらばこそ』の意味・解釈について意見を交わしました。更に1月14日に大阪クラブで開催された「凌霜謡会〈新春例会〉」のHP記事(参加者25名、東京からの参加者は無)を紹介しました。

2月26日 2月25日に東京六甲クラブで2月例会を開催しました。5名で「當麻」「朝長」「羽衣」「雲林院」「鞍馬天狗」の5曲を予定通り謡いました。世話人から会員の西野さん、笹間さんのご逝去をお伝えしました。西野さんは永年当謡会の世話人役を務められ、笹間さんは当会消滅危機の際に、故高岡さんの推挙でビジターとして参加していただき、永年一緒に謡曲を楽しみました。お二人のご冥福をお祈り申し上げます。

恒例の「能・謡ひとくちメモ」は、(第8話)『「御法を得てこそ失せにけり」～係り結び』を配布し、『雲林院』にもあるように、謡の詞の中には「(係り)こそ～(結び)已然形」の文法通りではないことがあるのを学びました。

3月26日 3月25日に東京六甲クラブで3月例会を開催しました。7名で「竹生島」「屋島」「櫻川」「西行櫻」「鶴」の5曲を予定通り謡いました。恒例の「能・謡ひとくちメモ」は、(第19話)『竹生島の〈かの客人〉とは誰か』と(第1話)『小兵というぜう《屋島》』を配布しました。また、山本さんが以前にHPに投稿された「竹生島のワキはどこから乗船したか」を配布し、同氏から解説をして頂きました。

4月30日 4月29日に東京六甲クラブで4月例会を開催しました。6名で「養老」「田村」「大原御幸」「善知鳥」「鶉飼」の5曲を予定通り謡いました。恒例の「能・謡ひとくちメモ」は(第15話)『善知鳥の不思議さ』を配布しました。

また、6月17日に大阪で開催される『凌霜謡会6月例会』の案内をしました。残念ながら今回も東京からの参加者はないようです。

5月28日 5月27日に東京六甲クラブで5月例会を開催しました。8名で「賀茂」「頼政」「千手」「雲雀山」「歌占」の5曲を、久しぶりにマスクなしで謡いました。恒例の「能・謡ひとくちメモ」は、今回の曲目「雲雀山」に因んで、(第23話)『「四鳥の別れ」の語源をたずねて』を配布しました。また、「2024年東京凌霜謡会に関する要望書」用紙を配布し、来年の要望曲や謡会の運営に関する要望の提出をお願いしました。

なお、7月29日に予定されている「全国大学学生・OB・OG能楽連合会謡会」に、当会として連吟「蟬丸」(シテ=清見、ツレ=伏見、地頭=山本)で臨むことになりました。

- 6月28日 6月24日に東京六甲クラブで6月例会を開催しました。今回は、小生(向濱)が都合により参加できなかったため、谷村鉄郎さんに世話人代行を勤めていただきました。例会後の同氏からの報告によれば、参加者は5名と少なかつたものの当初の予定通り、「雨月」「自然居士」「浮舟」「蟬丸」「大江山」の5曲を元気に謡ったようです。恒例の「能・謡ひとくちメモ」の配布は今回ありませんでした。
- 7月17日 7月15日に東京六甲クラブで7月例会を開催しました。今回も、小生(向濱)は都合により参加できなかったため、6月例会に続いて谷村鉄郎さんに世話人代行を勤めていただきました。例会後の同氏からの報告によれば、参加者は5名と少なかつたものの当初の予定通り、「玄象」「通盛」「班女」「俊寛」「土蜘蛛」の5曲を元気に謡いました。
終了後、7月29日に予定されている「全国大学学生・OB・OG能楽連合会謡会」で謡う連吟「蟬丸」(シテ=清見、ツレ=伏見、地頭=山本)の練習を行い、5時半に解散しました。
- 8月27日 8月26日に東京六甲クラブで7月例会を開催しました。6月・7月と2か月連続で欠席し、世話人を代行して頂いた谷村さん初め参加の皆さんに大変ご迷惑をおかけしましたが久し振りに皆さんとご一緒に楽しいひと時を過ごさせて頂きました。参加者は7名で、予定の「東方朔」「七騎落」「芭蕉」「女郎花」「融」の5曲を元気よく謡いました。
恒例の「能・謡ひとくちメモ」の配布は今回も見送らせて頂きました。また、2024年の例会希望曲の申し込みを締め切り、9月例会で「2024年年間番組表(案)」を提案いたします。
- 9月25日 9月24日に東京六甲クラブで9月例会を開催しました。参加者は6名で、「三輪」「放下僧」「鉄輪」「阿漕」「熊坂」の5曲を元気よく謡いました。恒例の「能・謡ひとくちメモ」は(第35話)『道行・待謡等の<返句>の謡い方～独吟か連吟か～』を配布し、流派や曲目によりバラバラであること、素人の謡会などでは事前に謡い方を打ち合わせておくのが望ましいこと等を確認しました。2024年の年間番組表(案)を配布しました。
また、12月3日に予定されている「第3回三大学卒業生謡会」で当凌霜謡会が担当する演目として、素謡「巴」と連吟「三井寺」でエントリーすることに決定しました。
次回10月例会でその練習・地合わせを行うため、10月例会の番組を少し変更することにして午後4時30分に解散しました。
- 10月22日 10月21日に東京六甲クラブで10月例会を開催しました。今回は12月3日に予定されている「第3回三大学卒業生謡会」の地合わせを行うため、番組を一部変更して、素謡「實盛」「巴」「菊慈童」の3曲と連吟「三井寺」を、参加者6名で謡いました。恒例の「能・謡ひとくちメモ」は(第10話)『遠くも来ぬるものかな～能の諸役の旅した距離～』を配布し、諸曲の中でシテやワキ・ツレなどの諸役が旅をした距離の比較を見ました。
9月例会で提示した「2024年の年間番組表(案)」については、特段のご意見がなかったためそのまま確定しました。(但し、東京六甲クラブの都合で1月例会の日程が変更になりました。)
- 11月26日 11月25日に東京六甲クラブで11月例会を開催しました。参加者は6名で、「三笑」「碓

潜」「定家」「唐船」「船弁慶」の5曲を元気よく謡いました。恒例の「能・謡ひとくちメモ」は(第14話)『謡曲あら捜し』を配布しました。月例会終了後、12月3日に開催の「三大学卒業生謡会」に参加する3名で連吟「三井寺」の地合わせをしました。

令和6年1月13日に神戸大学大阪クラブで凌霜謡会新春大会が開催される旨の連絡をしました。東京六甲クラブの年会費の徴収方法が来年度から口座振替に変更になりますので、会員各位のご協力をお願いしました。

12月24日 12月23日に東京六甲クラブで12月例会を開催しました。参加者は5名で、「巻絹」「鉢木」「東北」「籠太鼓」「小鍛冶」の5曲を元気よく謡い、令和5年の謡納めとしました。本年は、コロナの第5類への分類変更に伴い、毎月の例会を全回開催することが出来ました。参加各位のご協力に感謝いたします。

恒例の「能・謡ひとくちメモ」は(第36話)『ツヨ吟の甲グリのこと』を配布しました。また、12月3日に第3回三大学卒業生謡会が開催され、次回(R6年12月1日予定)は東京凌霜謡会が幹事役となるため、参加協力の依頼をしました。